

# 北中生が取り組んだ「おもてなし」

開催が半月後に迫った東京オリンピックピックですが、今から八年前、東京にオリンピックピックを誘致するために滝川クリステルさんが披露したスピーチが大きな話題となりました。今の皆さんがまだ幼い小学生や園児だった時ですから、知らないでしょうね。そのスピーチの中で特に注目を集めたのが、「おもてなし」という言葉でした。この言葉はその年の新語・流行語大賞に輝きました。その時の彼女のスピーチの一部を掲載します。

「それ（おもてなし）は見返りを求めないホスピタリティの精神、それは先祖代々受け継がれながら、日本の超現代的な文化にも深く根付いています。『おもてなし』という言葉は、なぜ日本人が互いに助け合い、お迎えするお客様のことを大切にすることを示しています。」

これをそのまま北中生が姿で示しました。中体連の大会が行われた六月二十六日、文化美術部の生徒たちが北中に集まり、ある作品の制作に取り組みました。それが、現在北中のメイン階段脇に掲げられている横断幕です。手作りの温かさがしみじみと感じられる素晴らしい出来栄に、私は深く感動しました。

今年の十月に、六十歳以上の高齢者を中心としたスポーツ、文化健康と福祉の総合的な祭典、ねんりんピックが岐阜県で開催されます。瑞浪市の中学校を代表して、北中の文化美術部が、福岡県から参加する方々を歓迎するために、この横断幕づくりに取り組みました。



構想から自分たちで考え、下書き、色塗り、福岡県からの参加者のことをイメージして頑張りました。描きたいものを描くのではなく、「何を、どのように描けば、福岡県からの参加者は喜んでくださるのだろうか」と考えて取り組んだところに大きな意味があると私は思います。

向かって左側には、福岡県篠栗町にある寝姿の大仏。中ほどには、福岡県グルメのイチゴの「あまおう」と博多明太子と博多ラーメン。そして、右側には、福岡県のマスコットキャラクターの「エコトン」がレイアウトされています。私には、これを見た福岡県からの参加者の笑顔が目に見えます。私には、これを見た福岡県からの参加者の笑顔が目に見えます。

これが「おもてなし」です。人と助け合い、人を大切にする日本人のよさです。横断幕を見ると伝わってくる費やした手間や時間、取り組むときの汗や笑顔が福岡の人たちに伝わり、「岐阜に来てよかった」と思ってもらえることでしょう。（七月九日記）

